

やる気発生装置

京都府立東稜高等学校

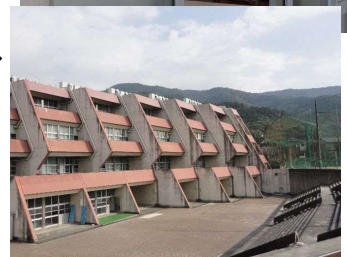
蹴上から山を越えて山科へ、さらに外環状線にそって南に向かい、伏見区に入って「醍醐」とよばれる地域にあるのが東稜高校です。当塾のある左京区もたいがいなんですが、伏見区って東から西まで広いですよ。地下鉄東西線でもかなり便利に行ける（まあ左京区から通うなら現実的にメインの通学手段になりそうです）のですが、久しぶりに見学に行かせてもらうこととなり、やはりサイクリングを楽しみたいので、いつものように自転車をくりだして、行って参りました。

京都市の近郊でありながら、この地域には土地をふんだんに使えるメリットがあるようです。東山高校や龍谷大平安高校が近くに専用グラウンドを造営していますし、あまりお世話になりたくはありませんが刑務所もあります。東稜高校もその利点を活用しているのかなと言えるのが、オープンカットという独特の形状をもった校舎。南に向いて斜めに建てられた教室棟は、フロアごとにベランダの広さが違い、地下を含めたどの階にも太陽の光が惜しげなく注ぎ込みます。夏場は暑いんとちがうかな、と要らぬ心配にもなるんですが、青春の舞台にふさわしく、空間を贅沢に使った学校です。

毎年、いろんな学校からおびただしい数のパンフをいただくんですが、その中で特に印象に残ったのが東稜のパンフでした。ちょっと失礼かも知れませんが駅にあるフリーペーパー風の親しみやすい表紙に、16ページにわたる雑誌風の中身。完成度が高いですが、かといって業者任せでは決して作れない手作り感が随所に見られます。あまりにインパクトがあったので、何か特別な工夫をされているのですか？と校長先生に聞いてみると、昨年度までの校長でプロモーションの達人であるT橋先生の置き土産だとおっしゃってました。このT橋先生、現在はとある私学に転職されていますが、京都の塾業界では誰もが知る有名な先生で、校長在任時は当塾にも自ら挨拶に来てくださいました。うちの規模の塾に、公立のそれも校長先生が直接来られるって、相当のフットワークがないとできない、すごいことなんですよ。実際のパンフ制作は、編集スキルのある先生がティーンズ雑誌などを参考に担当されたとのことですが、さすがです。僕自身も、塾として広報活動の大切さを痛感していますので、しっかり勉強させていただきたいと思っています。



雑誌風の学校パンフは、完成度と手作り感を両立させていて、他校のものとは並べても、その存在感は圧倒的なものがあります。



各フロアの教室の窓が斜めに並び、それぞれにバルコニーが張り出した独特の校舎は、広い校地があってもその贅沢な造りです。あたたかな日差しがふんだんに取り入れられる学び舎です。

当面の教室予定

12/12(木)~12/13(金)

16:00~22:00

12/14(土)

10:00~12:00

(午後はお休みです)

12/15(日)

16:00~21:00

※21時以降、教室に生徒が残っていない場合には閉室させていただきます。

※天候や各種感染症の状況等により、変更させて頂く場合があります。